

海外の就学前教育・保育場面における幼児の社会的相互作用に関する文献的検討

○藤原 あや

(筑波大学 人間系 DAC センター)

KEY WORDS: 就学前教育 保育 社会的相互作用

目的

就学前教育・保育場面は、子どもたちの相互作用や社会的な行動が生起する場面である。しかし、障害のある子どもは定型発達児と比べ、友だちとかかわって過ごす時間が少ない (Brown et al., 1999)。そのため、障害のある子どもを対象とした社会的相互作用を促進するための研究が行われてきている (e.g., Hume et al., 2019; Kimberly et al., 2018)。しかし、就学前教育・保育場面での社会的相互作用の評価において、データ量が限られていることや、教室にいるすべての子どもの社会的行動を継続的に捉えることはできない等これまでの評価方法における課題も指摘されている (Daniel et al., 2019)。

そこで本研究では、今後の就学前教育・保育場面において有効な社会的相互作用の評価方法に関する予備的検討として、海外の就学前教育・保育場面における社会的相互作用に関する研究を概観し、社会的相互作用の評価方法を整理することを目的とする。

方法

1. 先行研究論文の検索

Educational Resources Information Center (ERIC) 及び PsychINFO を利用し、「classroom」、「playground」と「social interaction」、「reciprocal interaction」、「mutual interaction」を組み合わせたものをキーワードにして検索した。また、近年の海外の動向を把握するため、2016年以降に英語で書かれた査読付きの論文を検索条件に加えた。

2. 分析対象論文の選定

ERIC では 92 件、PsychINFO では 68 件の学術論文が抽出され、重複を除くと 133 件となった。133 件のうち就学前の乳幼児を対象とし、就学前教育・保育場面における社会的相互作用を評価している学術論文が 27 件あり、その他は学齢期以降の児童生徒や教師を対象とした論文やレビュー論文、社会的相互作用以外を対象とした論文であった。そのため、就学前の乳幼児を対象とし、就学前教育・保育場面における社会的相互作用を評価している学術論文を 27 編を分析対象とした。

3. 分析項目

分析対象とした論文について、対象児、評価場面、評価方法について整理した。

結果

1. 対象児

対象児は定型発達児や、社会的相互作用に困難がある自閉スペクトラム症児、診断はないがかかわりに課題がある幼児、行動上の問題がある幼児が対象となっていた。また、対象児の年齢の範囲は 15 か月から 6 歳であった。

2. 評価の対象となる場面

社会的相互作用の評価を行った場面は、プレスクールやキンダーガーデン、インクルーシブなプレスクール、チャイルドケアセンター、特別支援学校であった。

3. 評価方法

社会的相互作用の評価方法には、大きく分けて観察と質問紙があった。観察では、直接または録画映像により観察を行

い、操作的に定義した社会的相互作用の行動 (Darlene et al., 2018) や、相互作用の継続時間 (Green et al., 2017)、相互作用のターン数 (Therrien & Light, 2016) などを記録していた。また、フィールドノートに相互作用の様子を記述し、その記録を、帰納的なオープンコーディングを用いてコード化、カテゴリー化している研究もあった (Dorney & Erickson, 2019)。質問紙では、Penn Interactive Peer Play Scale (Fantuzzo et al., 1995) や Preschool and Kindergarten Behaviour Scale (Merrell, 2002), Second Edition, Social Skills Improvement System (Gresham & Elliott, 2008) などを用いて保護者や教師が、対象児の社会的相互作用について評価していた (e.g., Cordiano et al., 2019; Hemmeter et al., 2016)。

考察

海外の就学前教育・保育場面における社会的相互作用の評価には、観察や質問紙が用いられていた。観察においては、評価の対象 (社会的相互作用の回数、継続時間、内容など) に応じて、定義された行動の記録やフィールドノートによる記録などが行われていた。質問紙については、観察とあわせて実施される場合と、質問紙のみが実施されている場合があった。社会的相互作用の具体的な変化を把握するためには、観察による評価が有効であると考えられるが、評価者が外部の研究者や支援者である場合と、保育者や保護者である場合で、実施可能な方法は異なる可能性が考えられた。そのため、対象児、評価場面、評価方法に加え、評価の対象となる社会的相互作用、評価者などについても分析を進める必要があると考えられた。

また今後は、日本の保育場面における社会的相互作用に関する研究についても文献的検討を行い、就学前教育・保育場面において有効な評価方法や実施可能な方法を検討する。

文献

Darlene, H. A., Scott, M. T., Paul, C., Blake, D. H., & Michael, J. R. (2018) Increasing positive playground interaction for kindergarten students at risk for emotional and behavioral disorders. *Early Childhood Education Journal*, 46 (5), 487-496.

Dorney, K. E. & Erickson, K. (2019) Transactions within a classroom-based AAC intervention targeting preschool students with autism spectrum disorders: A Mixed-methods investigation. *Exceptionality Education International*, 29 (2), 42-58.

Green, V. A., Prior, T., Smart, E. Boelema, T., Drysdale, H., Harcourt, S., Roche, L., & Waddington, H. (2017) The use of individualized video modeling to enhance positive peer interactions in three preschool children. *Education and Treatment of Children*, 40 (3), 353-378.

本研究は、JSPS 科研費 20K22179 の助成を受けた。

(Aya FUJIWARA)